

【様式1】外国人の子供等の就学に関する検討会ワーキンググループ①に係るICT活用事例

| | |
|------------|--|
| 校種・学年 | 小学校・第6学年 |
| 教科・単元名等 | <p>国語「修学旅行の作文を書こう」（取り出し指導）</p> <p>教科の目標：経験したことから書くことを見付け、伝えたいことを明確にすることができる。</p> <p>日本語の目標：「いつ どこで だれが 何を どうした」の文型を使って、したことを書くことができる。</p> |
| 事例の概要 | <p>経験したことを日本語にする時に母語を手がかりにできるように、タブレットを用いて自分で調べ、作文に表す。</p> |
| 学習展開 | <ol style="list-style-type: none"> 1 学習課題をつかむ <ul style="list-style-type: none"> ○修学旅行のしおりや写真を見て、旅行のことを思い出す。 ○楽しかったことを話し合い、作文に表す意欲を高める。 2 書き方を話し合う <ul style="list-style-type: none"> ○「いつ どこで だれが 何を どうした」の文型を確認する。 ○「はじめに」「つぎに」「それから」を使って出来事を順に書けるよう、カードを掲示しておく、話し合いながら例文を作成する。（図1） 3 タブレットを活用しながら、各自で作文を書く <ul style="list-style-type: none"> ○行った場所のホームページを検索し、どんなものがあったか写真等を見て思い出し、文を書く。「〇〇で、〇〇を見ました。」（図2） <p style="text-align: right;">○母語では言えるが日本語の表現が分からない時は、多言語翻訳アプリで音声入力する。（図3）</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 作文を清書する。 <ul style="list-style-type: none"> ○名称や形容詞の活用の間違い、助詞の抜けなどは、教師が教える。 ○文章表現で分かりにくいところは、一人一人と話し合いながら直す。日本語でうまく伝えられないときは、多言語翻訳アプリを活用する。 5 交流と振り返り <ul style="list-style-type: none"> ○在籍学級で作文を発表したり、掲示したりする。 |
| 活用したアプリ機器等 | <p>Google（検索・翻訳） 他言語翻訳アプリ（VoiceTra） 一人一台端末（タブレット）</p> |
| ICT活用の効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行先のホームページを見ることで、経験を想起することができた。 ・翻訳アプリで日本語になると、自分の考えたことが合っているかどうか分かり、合っていると自信につながった。 |
| 児童生徒の感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・翻訳アプリを使うと、自分の言いたいことが日本語になるので、一人でも作文を書くことができた。 ・翻訳アプリで出てきた言葉が知っている言葉だとうれしい。 |

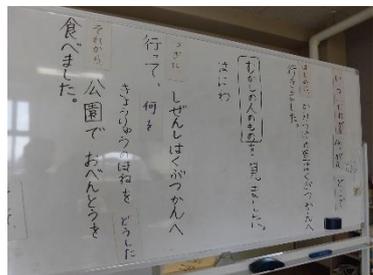


図1 例文の掲示



図2 検索の様子

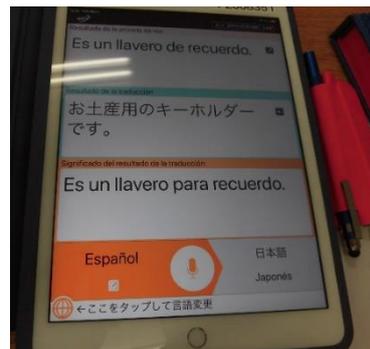


図3 タブレットの画面